

[課題演習概要]

小学校外国語科におけるリテラシー能力の基礎の育成 —Joint Storytelling 活動を中心に—

今原 優花

Yuka IMAHARA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
教職教育高度実践力プログラム

(2023年1月10日受理)

キーワード：リテラシー能力，Joint Storytelling 活動，なぞり読み

1 研究の目的

本研究では、小中連携を円滑に行うために読み書き指導に着目して指導を行う。その中で、将来的な Reading・Writing 能力、すなわち、リテラシー能力の育成に繋がる単語の音と文字の綴りの連関を児童に習得させることを目的とし、Joint Storytelling 活動を通じた指導を行い、その効果を明確にする。

アレン玉井(2013)によると、Joint Storytelling 活動とは、対話形式のスキプトを一話分丸ごと覚え再話する、物語をとおして意味のある文脈で英語を教える指導法のことである。これは、アレン玉井(2010)が主張する、言語獲得は文脈の中で使う経験なくしては成り立たないこと、第二言語を習得する児童にとって、文脈を頼りに意味を理解していく経験(mentalese)が、自然な言語習得環境に近い、最適な外国語学習環境であることに基づいた指導法である。また、この研究は、児童の感じる負担を少なくし、楽しさにも着目するため、教材は、児童の興味・関心、また、外国語科学習への足掛かりとなるように、外国語科学習にも関連した内容の英語絵本を使うことにした。

本研究は、すでにローマ字を学習している児童(5・6年生)に対して Joint Storytelling を用いた指導を行い、効果的に文字と音の連関規則の習得を図ることを目的とした。

2 研究の計画

本研究は Joint Storytelling 活動を中心に、それに関連させた内容を組み込み、3つの研究で行う。いずれも児童の「(単語を)聞いて(見て)分かる」ことに重点をおいた指導を行う。

また、それぞれの段階の事前・事後において、文字と音の連関を確認するテスト(英単語のミニマル・ペア)及び、内的変容を見取るためのアンケート調査を行った。

3 研究の内容

(1) Joint Storytelling 活動に「なぞり読み」を加えた指導(6年生 33名)

第1研究では、Joint Storytelling 活動に加え、「なぞり読み」を導入した。これは、池尻・畑江(2017)の提案している学習方法であり、児童に文字にも注目させ、文字認識能力を高める指導方法である。教師が文章を指さしながら、読み聞かせを行い、児童も文章を指さし、なぞりながら読んでいく。

第1研究における全体正答率は、事前テスト：59.39%、事後テスト：80.00%にまで上昇したことから、児童の文字認識能力を高めることが分かった。また、アンケート調査の結果より、Joint Storytelling 活動となぞり読みは、児童の自信や安心に繋がる活動であることも認められた。

(2) Joint Storytelling 活動に「フォニックス的指導を加えたバランスト・アプローチ」の研究(5年生 28名)

前研究においては、書くことの指導や発音の質へのアプローチができなかった。さらに、畑江(2017)は、『『聞く』ことと『読む』ことの乖離が問題』とし、「視覚として捉えた文字を即座に音声化する経路の強化が重要」であり、そのために、「初期段階から長期に渡り、アルファベット文字への慣れ親しみも含めて、音声と文字との同時インプットが大量に必要である」(pp.19-20)と述べている。さらに、畑江(2017)は、「生得的な言語習得能力が母語獲得以降低下すること、メタ認知能力の上昇からより論理的な思考が可能となり、学習の効率に繋がるということから、小学校高学年で文字指導を導入することは、発達段階から見て『適期』である」(p.17)と述べている。

そこで、第2研究では、Joint Storytelling 活動に加え、「Phonics 的指導」を導入した。これは、畑江(2017)の「フォニックスはルールだけを覚えなくてはならない辛い指導法になることもある」(p. 20)という指摘に基づいた指導方法である。児童への負担を軽減させるために、本研究で取り扱う英語絵本教材の中の英単語のみの指導に絞り、それに類似した英単語のみを取り扱う指導とし、これは、音と文字を結びつけるフォニックスルールを覚える Phonics 指導とは異なるため、「Phonics 的指導」と定義づけた。

今回の結果では、同じミニマル・ペアの事前・事後テストの比較で音と文字の連関を裏付けることのできる有意差は見られなかった。(事前: 60.00%, 事後: 63.70%)その要因として、第5学年での Phonics 的指導の導入が早かったこと、事後テストで提示した未知語が混乱を招いたこと、児童が知っている英単語の数が相対的に少なかったことが考えられる。一方で、アンケート比較を行うと、全項目において、全体結果の数値は上昇し、絵本に対する興味などの項目については有意性のある結果が得られた。以上のことから、この活動に対しての児童の学習意欲や楽しさといった内面的効果を得ることはできたと考えられる。

(3) Joint Storytelling 活動に「なぞり書き、写し書き指導」を加えて(5年生 31名)

第2研究での改善点を踏まえ、児童が楽しんで活動することのできる内容は残しつつ、フォニックス的指導とは異なる観点から、文字認識能力を高め、さらに、書くことの指導もできるよう、「なぞり書き、写し書き」の指導を組み込んだ。ここでは、児童は、事前テスト、事後テストで出題する内容の英単語を指導者とともに学習する。児童は、声に出しながら単語を2度なぞり書きをし、さらに1度写し書きをする。これを行うことで、児童は、自分の発音している英単語を聞きながら文字を見て、全3回書いていくことになる。

第3研究における、異なるミニマル・ペアの事前テストの全体正答率は、69.35%であり、事後テストにおいては、84.95%にまで上昇した。また、それぞれの英単語を比較すると、全ての英単語において、全体正答率が上昇し、語中に母音を含む duck においては、事前: 3.23%から事後: 58.06%にまで上昇した。また、アンケート調査の結果においても、全項目において数値が上昇し、「英語での活動は楽しかったですか。」という項目においては、児童の93.54%が最も高い「とても楽しかった」と回答した。以上のことから、今回の研究において、児童は楽しみながら文字認識能力を高めることができたと言える。これは、児童の発達段階や学習レベルに適した指導内容であったとともに、児童が楽しみながら活動を行うことができたことによる結果であると考えられる。

4 成果と課題

それぞれの研究において、Joint Storytelling 活動は、児童の文字認識能力を高め、児童が段階的に音声と文字を学び、最終的にそれらに関連付けた活動を成し得ることのできる有効な手立ての一つとして認められと言える。また、アンケート比較から、児童の自信や安心、楽しさへも繋がる指導の一つであると言える。

しかし、指導を行う児童の実態や発達段階によって、活動内容や難易度の工夫が必要である。今後の課題として、児童の実態と照らし合わせた活動内容や指導の工夫、さらに、本研究で行うことのできなかった、外国語科の授業内での帯活動としての実践を含む、長期間での実践、それらによる効果的なリテラシー能力の基礎の育成について熟考していきたい。

主な引用・参考文献

- ・アレン玉井光江(2010)『小学校英語の教育法理論と実践』大修館書店
- ・アレン玉井光江(2013)『Story Trees』小学校集英社プロダクション
- ・Carle, E. “Today is Monday” Turtleback Books
- ・池尻早紀・畑江美佳(2017)「自然な英語の「音読へとつなげる小学校外国語教育—マザーグースを活用して—」『四国英語教育学会紀要』, 第37号, pp.1-14.
- ・田中真紀子(2020)『絵本で教える英語の読み書き 小学校で実践したい英語絵本の指導法』研究社
- ・畑江美佳(2013)「外国語活動における文字指導の適期と方法に関する研究—小・中接続カリキュラムを視野に入れて—」『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』第3号, pp13-22
- ・畑江美佳(2017)「小学校外国語教科化に伴う『読む』指導の在り方—『適期』に『適切』な指導を—」『鳴門教育大学 小学校英語教育センター紀要』第8号, pp15-24
- ・文部科学省(2015)「文科省教育課程企画特別部の骨格となる論点整理(2015年8月20日)」https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
- ・文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』
- ・文部科学省(2018)「第3期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)」https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf
- ・文部科学省(2019)「英語教育実施状況調査(令和元年度)」https://www.mext.go.jp/content/20200715-mxt_kyoubiku01-000008761_5.pdf